

9月13日(金) A会場 県民ホール

大会長講演(ウェルカムスピーチ)

9:30～10:15

刑事精神鑑定学と臨床精神病理学－被鑑定人から得られた知見は臨床に寄与する－

司会：佐藤 晋爾(茨城県立中央病院精神科)

(筑波大学医学医療系 茨城県臨床教育センター)

鹿児島大学医学部保健学科

同大学院保健学研究科

赤崎 安昭

シンポジウム1

10:15～12:35

攻撃性と自己破壊～精神鑑定事例から学ぶ～

司会：赤崎 安昭(鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科)

安藤 久美子(聖マリアンナ医科大学)

愛する息子(40歳代)を殺害した抑うつ病態圏の父親(70歳代)の事例

吉岡 眞吾(愛知県精神医療センター)

攻撃性と自己破壊の犯罪病理

安藤 久美子(聖マリアンナ医科大学)

攻撃性と法・制度・規範－いじめ防止対策推進法による介入

井原 裕(獨協医科大学 埼玉医療センター)

特別講演1

14:20～16:20

病む人にかかわる－関係の営みと生命の視点－

司会：赤崎 安昭(鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科)

和田 信(大阪国際がんセンター 心療・緩和科)

ゲスト：上野 知子(フリーアナウンサー)

精神療法に繋がる精神病理学

司会：野間 俊一（のまこころクリニック）  
堀切 靖（鹿児島県立始良病院）

病態構造から手当てを組み立てる

滝上 紘之（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

技法の裏にあるもの～精神療法は何にどう効くのか～

野間 俊一（のまこころクリニック）

デモラリゼーションからみる精神療法の共通要因

玉田 有（東京医科大学八王子医療センター）

感情交流から見る精神療法

林 直樹（医療法人三恵会 西ヶ原病院）

9月13日(金) B会場 大ホール

一般演題 B- I

14 : 20 ~ 15 : 20

疾患概念と方法論

座長：針間 博彦（都立松沢病院）

B- I -1 Kurt Schneider の疾患概念を再考する—批判的継承に向けて

本村 啓介（国立病院機構肥前精神医療センター）

B- I -2 精神医学の全体論的方法論再考—精神医学的症状学の洗練のために—

古城 慶子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部作業療法学科）

一般演題 B- II

15 : 20 ~ 16 : 50

メランコリー概念をめぐる理論の再考

座長：芝 伸太郎（もみじヶ丘病院）

B- II -1 構造分析(Birnbaum)によるメランコリー症例定式化の試み

工藤 弘毅（西毛病院）

B- II -2 うつの罪責感の了解不能性について：内海の楢円幻想論から

佐藤 晋爾（筑波大学医学医療系 茨城県地域臨床教育センター）

B- II -3 『メランコリー』（テレンバッハ）と現存在分析論

西依 康（自治医科大学 精神医学講座）

一般演題 B-III

16:50～18:20

木村敏とこれから

座長：深尾 憲二郎（帝塚山学院大学 総合心理学部）

B-III-1 「感情欠如の感情」のパラドクス

芝 伸太郎（もみじヶ丘病院）

B-III-2 「あいだ」存在するとは別の仕方としての邂逅

山本 慎治（秋津こころの相談室）

B-III-3 鬱病の時間論（3）鬱病の病識について

山田 明伸（公立陶生病院メンタルクリニック）

9月13日(金) C会場 中ホール

一般演題 C-I

10:30～11:30

「さびしさ」と「ひきこもり」

座長：堀切 靖（鹿児島県立始良病院）

C-I-1 精神科臨床における「さびしさ」に関する考察

柴田 啓輔（医療法人交正会精治療病院）

C-I-2 強迫性障害による長期閉じこもりからピアサポーターとして活動できるまで回復した一例

水野 恵三子（社会医療法人如月会若草病院）

一般演題 C-II

11:30～12:30

統合失調症における体験

座長：萩原 徹也（信州大学 精神医学教室）

C-II-1 人格の複数化を生じた統合失調症の一例

山内 彩希帆（地方独立行政法人 栃木県立岡本台病院）

C-II-2 統合失調症における様々な自生体験 -- 意志の自生

佐々木 康史（三次病院（広島県））

## 一般演題 C-III

14:20～15:50

## 神の存在と精神病理

座長：井原 裕（獨協医科大学埼玉医療センター こころの診療科）

- C-III-1 憑依現象と中動・ヒトパエル態の関係  
千丈 雅徳（五稜会病院）
- C-III-2 スクリューピュロシティ ——強迫と宗教——  
小林 聡幸（自治医科大学精神医学講座）
- C-III-3 否定神学と精神病理—「欠如」の生成過程に関する考察—  
小笠原 將之（関西福祉科学大学心理科学部）

## 一般演題 C-IV

15:50～16:50

## 子育てと子殺し

座長：赤崎 安昭（鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科）

- C-IV-1 子育てをきっかけに反復性の抑うつ状態を呈し、  
経過中に躁うつ混合状態であることが疑われた一例  
宇宿 梓（慈愛会 谷山病院）
- C-IV-2 子殺し否認事件の家族画に見られる幸せな家族の幻想  
辻 恵介（武蔵野大学人間科学部）

## 一般演題 C-V

16:50～18:20

## 終末期と「喪」の作業

座長：和田 信（大阪国際がんセンター 心療・緩和科）

- C-V-1 スピリチュアルな次元をどう理解すべきか —村田理論の再検討を通して—  
岡島 美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）
- C-V-2 喪と時間 -C.G.Jung の自己、時間論を中心に -  
清水 加奈子（日本うつ病センター 六番町メンタルクリニック）
- C-V-3 死者の存在と悲嘆：ペリネイタル・ロスと喪について  
西郷 佳世（竹田総合病院精神科）

9月14日(土) A会場 県民ホール

シンポジウム3

9:30 ~ 12:00

心的外傷を再考する - 子ども虐待がもたらす精神病理 -

司会：兼本 浩祐 (すずかけクリニック)

小城 くみこ (医療法人陽善会 坂之上病院)

子どものトラウマの理解とケア—発達精神病理学の観点から—

八木 淳子 (岩手医科大学付属病院)

子ども虐待の実態と TSP による DID への治療

杉山 登志郎 (福井大学 子どものこころの発達研究センター)

子ども虐待による心的外傷—「外傷体験の事実」と「治療者の心的現実」—

小城 くみこ (医療法人陽善会 坂之上病院)

特別講演2

13:20 ~ 14:20

毒殺の精神病理

司会：赤崎 安昭 (鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科)

帚木 蓬生 (ははきぎ ほうせい)

シンポジウム4

14:25 ~ 16:45

歴史的鑑定事例から学ぶ 第2回 オウム真理教事件

司会：赤崎 安昭 (鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科)

関 由賀子 (三菱電機本社健康増進センター)

オウム真理教教祖の訴訟能力と精神病理

中谷 陽二 (筑波大学名誉教授)

友人が聞き取ったある幹部信者の精神状況

久保田 正志 (特定非営利活動法人城塞史跡協会理事長)

指定討論

拘禁状況における現実否認・願望充足性妄想はいかなる機序によって形成されるのか

—被告人であるとの自己同定の解離性否認—

中安 信夫 (医療法人 原会 原病院)

ある幹部信者の精神状態に関する意見

小島 秀吾 (国際医療福祉大学大学院)

## 9月14日(土) B会場 大ホール

一般演題 B-IV

9:30 ~ 10:30

古典を読みなおす

座長：岩井 圭司（大阪人間科学大学 人間科学部医療福祉学科）

B-IV-1 「快原理の彼岸」(Freud) とは何か

総田 純次（大阪公立大学現代システム科学研究科）

B-IV-2 中井久夫の図形思考について考える

杉林 稔（愛仁会高槻病院 精神科）

## 9月14日(土) C会場 中ホール

一般演題 C-VI

9:00 ~ 10:30

精神療法のめざすところ

座長：野間 俊一（のまこころクリニック）

C-VI-1 「魂は存在しない」という認識から始める地道な精神療法

佐藤 寛（さとうメンタルクリニック）

C-VI-2 対人関係理論に基づくリスク評価を用いた精神療法によって漠然とした希死念慮が低減した症例

永田 青海（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野）

C-VI-3 治療が満たす条件について

中島 悠喜（五稜会病院）

一般演題 C-VII

10:30 ~ 12:00

これからの精神病理学

座長：熊崎 努（虎の門病院）

C-VII-1 われわれは「病理なき天才」(斎藤) を論じることは可能か？：『天才の精神病理』再考

田中 伸一郎（東京藝術大学保健管理センター）

C-VII-2 自閉スペクトラム症における構造的解離をめぐって

清水 光恵（滋賀県立精神保健福祉センター）

C-VII-3 陰謀論の精神病理

深尾 憲二郎（帝塚山学院大学総合心理学部総合心理学科）